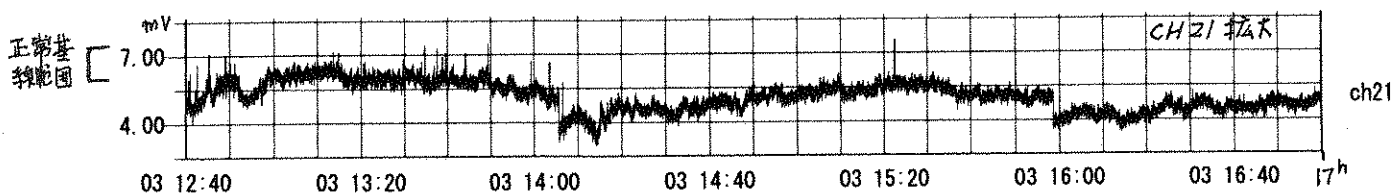
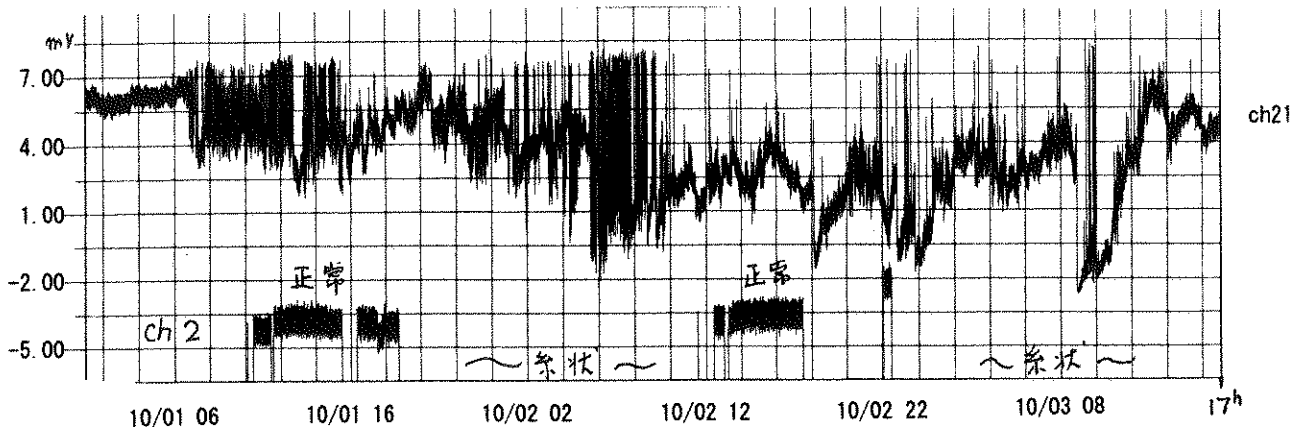


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 現況報告



2008年7月から8年3ヶ月と云う観測歴上最長に継続出現している特殊前兆=地殻地震前兆No.1778は、現在第18ステージ認識です。明確な最終前兆は09月26日認識です。

第18ステージ、09月26日極大認識に対する初現認識ですが、09月21日の可能性が再認識されました。09月21日初現~26日極大の場合は、 $T_{fap}:T_{map}=20:13$ 経験則より、10月05日が計算されます。仮に10月05日が発生日となる場合には、 $T_{map}:T_{pp}=6:1$ 経験則より、10月03日、本日の夕刻7時±頃、前兆が終息することが計算できます。

CH20=9/30の弱い特異以外、現状は、ほぼ静穏基線。その他前兆が継続している観測装置は、

- CH02=糸状特異(9/24より継続)
- CH21=特異状態(長期継続出現)

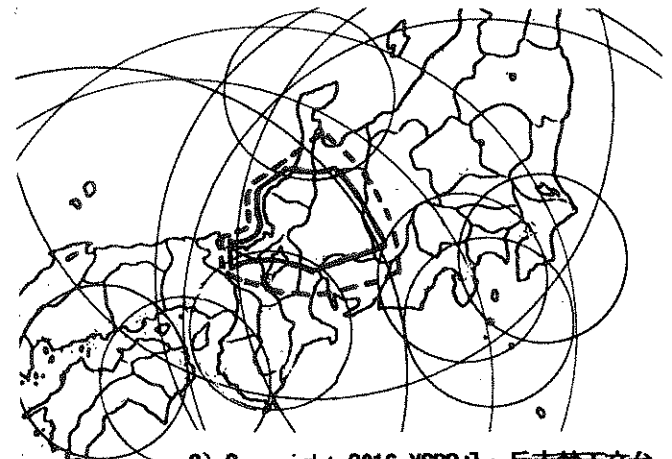
です。上波形は10/1より本日10/3夕刻7時迄のCH2, CH21の基線の状態です。本日夕刻7時時点で、CH21は通常静穏基線より若干電圧値が低い状態で、ただし非常に静穏な基線を記録しております。上波形CH21参照。CH02は以前報告の際、正常基線に

復帰したことを報告致しましたが、再び糸状態となり、10/2昨日2度に渡って数時間正常基線を記録致しましたが、現在再び糸状特異状態が継続出現しております。

このことから、09月26日最終極大認識が正しい場合は、10月06日以前に対応地震が発生する可能性は考えられないことになります。

但し、09月30日と10月02日に小ピークの可能性が考えられます。この場合は、9/21初現で計算しますと、10月14日±等の可能性も試算できます。

あくまでも09月26日が最終極大であって、初現認識から計算される10月05日±3(既に10月06日以前は否定されます)の誤差内として、10月07日or08日の可能性であるのか(この場合は、10月05日頃迄に終息の可能性)、または前述の小ピークが最終極大となるのが、現在継続中の弱い前兆CH21と糸状態のCH02の動向を観測して、第18ステージ前兆の全体を鑑み、推定したいと考えます。



- ◆推定領域: 右図 点線領域内付近=大枠推定領域
大線領域内付近=可能性考え易い推定領域
- ◆推定規模: $M7.8 \pm 0.5$
- ◆推定時期: 前兆終息を確認後計算
9/26最終前兆が正しい場合=10月06日以前
発生の可能性は否定されます。
- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発時刻: 午前09時±1(又は午後06時±3)
(但し前震がある場合は無効)

※その他、別大型地震が推定される前兆は観測されておられません。